

ももたろう

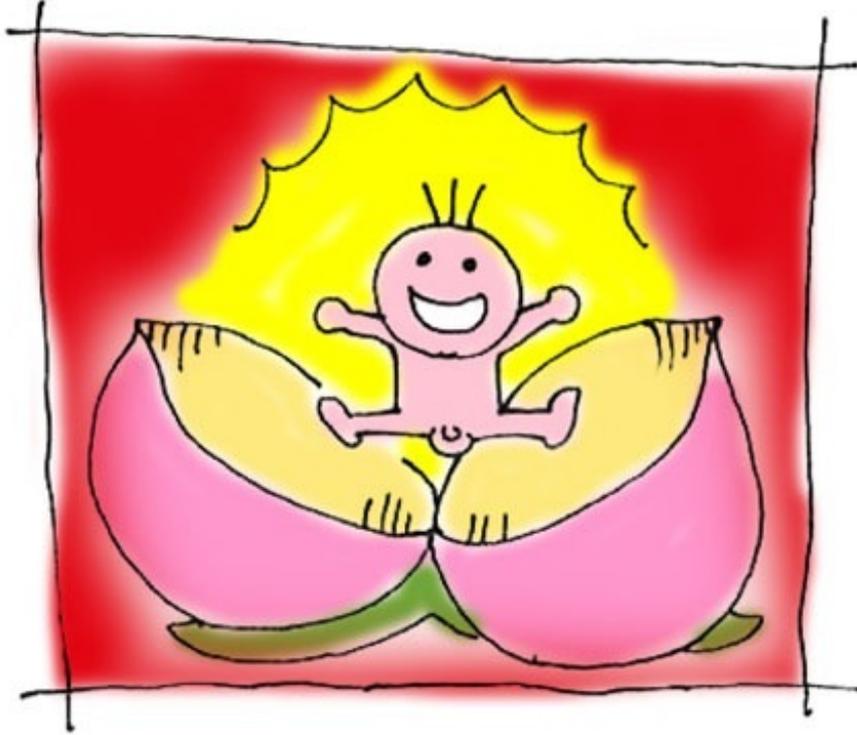




むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんは山へしば刈りに、おばあさんは川へせんたくに行きました。



おばあさんが川でせんたくをしていると、ドンブラコ～、ドンブラコと、大きな桃が流れてきました。「おや、これは良いおみやげになるわ」よろこんだおばあさんはその桃を背中にかついで帰って行きました。



そして、おじいさんとおばあさんが桃を食べようと切ってみると、なんと、中から元気の良い男の赤ちゃんが飛び出してきました！「これはきっと、神さまがくださったにちがいない」子どものいなかったおじいさんとおばあさんは、おどろいたけれども大よろこびです。桃から生まれた男の子は桃太郎（ももたろう）と名づけられました。



やがて桃太郎はすくすく育って、やがてつよい男の子になりました。そしてある日、桃太郎が言いました。「鬼ヶ島（おにがしま）にわるい鬼が住んでいると聞きました。私が行って退治しましょう。おばあさん、きびだんごを作って下さい。」

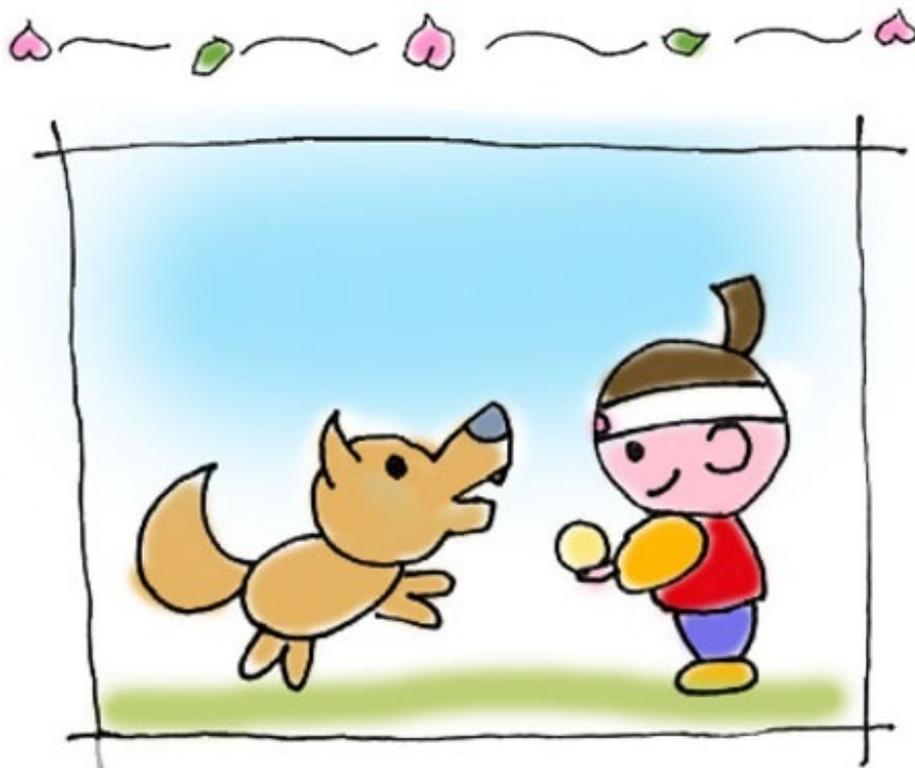
にっぽんいちのきびだんご



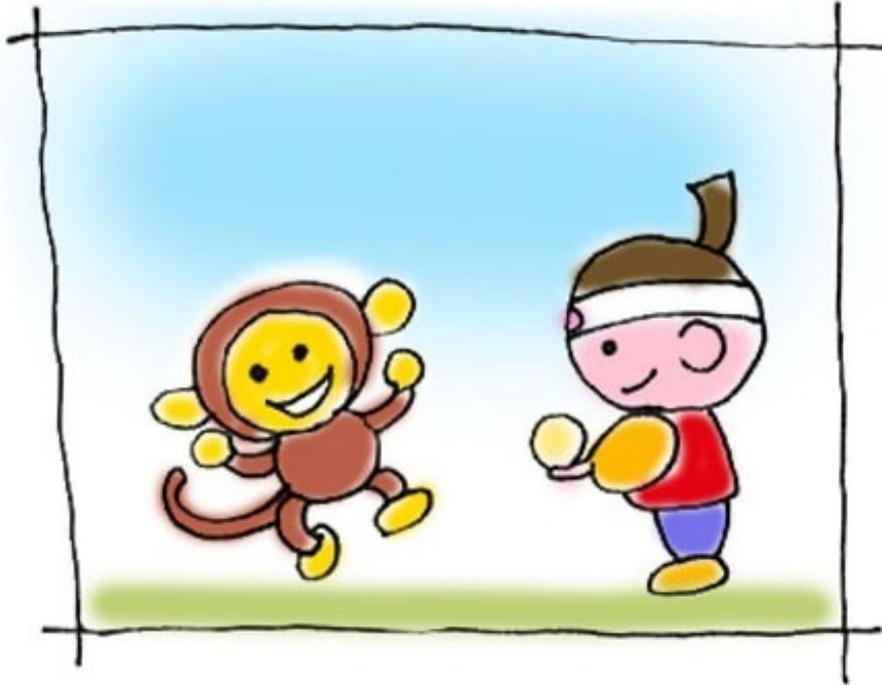
おばあさんはとてもおいしい日本一のきびだんごを作りました。



桃太郎は日本一のきびだんごをふくろに入れるとさっそく鬼ヶ島に向けて旅立ちました。



桃太郎は旅の途中で、イヌに出会いました。「桃太郎さん、どこへ行くのですか？」桃太郎は「鬼ヶ島へ、鬼を退治しに行くんだよ」「それでは、腰につけたきびだんごを1つ下さいな。おともしますよ」イヌはきびだんごをもらい、桃太郎のおともになりました。



つぎはサルに出会いました。「桃太郎さん、どこへ行くのですか？」桃太郎は「鬼ヶ島へ、鬼を退治しに行くんだ」「それでは、腰に付けたきびだんごを1つ下さいな。おともしますよ」サルはきびだんごをもらい、桃太郎のおともになりました。



そしてさいごに、キジに出会いました。「桃太郎さん、どこへ行くのですか？」桃太郎は「鬼ヶ島へ、鬼を退治しに行くんだ」「それでは、腰に付けたきびだんごを1つ下さいな。おともしますよ」こうして、イヌ、サル、キジの仲間を手に入れた桃太郎は、ついに鬼ヶ島へやってきました。

おにたいじ1



鬼ヶ島では、鬼たちが近くの村からぬすんだ宝物やごちそうをならべて、えんかいの真っ最中
です。

桃太郎はイヌ、サル、キジに

「みんな、ぬかるなよ。それ、かかれ！」



イヌは鬼のおしりにかみつきました。「いててて！はなしてくれー！」鬼は大あわてで逃げ回
ります。



サルは鬼のせなかをひっかきます。「あいたたた！こりゃかなわん！」みぎへひだりへにげまわります。



キジはくちばしで鬼の目をつつきました。「うわ——！周りが何もみえないぞー！」鬼はあち
らこちらにゴンゴンぶつかっています。



そして桃太郎も、刀をふり回して大あばれです。「ひゃあああ！これはかなわん！」



とうとう鬼の親分が、「まいったあ、まいったあ。こうさんだ、助けてくれえ」と、手をついてあやまりました。



鬼は「これでゆるしてください」と金や銀や織物（おりもの）や、荷車（にぐるま）いっぱいの宝物を桃太郎にあげました。



桃太郎とイヌとサルとキジは、荷車（にぐるま）いっぱいの宝物を手に入れ、元気よく家に帰りました。おじいさんとおばあさんは、桃太郎の無事な姿を見て大よろこびです。そして3人は、宝物のおかげでしあわせにくらしましたとさ。